

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700069		
法人名	医療法人社団 聡誠会		
事業所名	グループホーム ふくろう		
所在地	千葉県銚子市春日町1169		
自己評価作成日	平成25年2月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所を医療法人が経営している事で、医療との連携が迅速に図れ、常時医療関係者と連絡が取ることができます。入居前の主治医とのつながりも尊重し、入居後の医療に不安を抱くような心配はありません。また、医療関係者との連絡が迅速に取れる事から、将来的に看取り介護を希望された場合、心配なく今まで過ごした馴染みのあるホーム、ご自分のお部屋で最期の時まで過ごす事ができます。職員一人ひとりが入居者様の気持ちに寄り添い、いっさい拘束のない安心して過ごせる居場所作りを大切にしています。また、月々の行事担当者がマンネリ化しがちな日々の生活に入居者様みな様で楽しめる行事を盛り込むなど、娯楽面の支援にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームふくろう」はふくろうをイメージキャラクターとした平屋の施設である。建物の天井は天窓がある吹き抜けとなっており、施設中央に食堂やリビングを配置し、正面に設置されたウッドデッキ越しに外の風景が広がる等、明るく開放的で入居者にとって過ごし易い空間になっている。法人母体の医療機関との連携が構築されており、日々の医療支援を始め、緊急時・急変時における24時間体制での迅速で適切な対応や、重度化・ターミナルケア時の医療連携が整備されており、入居者・家族が安心感が得られた施設での生活継続に繋げている。他には、職員が家族との馴染みの関係が築けるよう、入居者別に毎日の出来事を一行に集約し、「一行日誌」として毎月、必要書類と共に送付しており、家族等の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や申し送り等で、理念を振り返る場を設けたり掲示し、周知徹底を図っている。職員は利用者のその人らしさを大切に、穏やかに過ごせるよう努力している。	開設時に職員と共に作り上げた理念、「のびのびとその人らしく、穏やかに生活して頂きますよう支援します。」を掲げており、施設内に掲示し、理念の共有を図っている。また、研修や会議等で周知徹底を図り、全職員が理念に基づいたサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の敬老会や、近隣の施設の夏祭りに参加し、ボランティアの和太鼓実演時には、近隣の施設に声かけ、見に来て頂いている。利用者との散歩時には、行き交う方々との挨拶や会話を通じて馴染みの関係作りを心掛けている。	散歩や外出時に近隣住民とは挨拶を交わす等、交流関係が築かれていると共に、地域行事等の参加も積極的に行っており、施設の理解促進に努めている。近隣のほとんどが介護サービス事業所であり、施設行事への相互の招待等を通じて、様々な事業所の利用者との交流が活発に行われており、外部の人との馴染みの関係が広がり、生活の活性化に繋がっている。その他、中学生の職場体験の受け入れや研修会への講師派遣等も行っており、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや見学は、積極的に取り入れている。認知症ケアに関する相談にも、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告、現状報告や意見交換、質疑応答などを行い、今後のサービスに反映できる様にしています。他の施設や地域の情報等も得て、実際の取り組みに活かしています。	地域包括支援センター職員・町会長・民生委員・町内有識者・職員等を構成員として、今年度は3回運営推進会議を開催している。会議では活動報告や意見交換等が行ない、施設の理解促進に努め、挙がった意見・情報等は施設運営やサービスの質の向上活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター等による地域実務者会議や認知症ケア検討会を通じて、情報交換し連携を図っている。運営に関する事も報告・相談を行って協力体制を築いている。	日頃から市に対して報告・相談等を随時行っていると共に、運営推進会議を通して、連携を図っている。また、市主催の研修会・会議に参加すると共に、グループホーム連絡会を通じて協働体制の構築に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、拘束しないケアに努めている。身体拘束廃止研修に参加し、職員全体で勉強会を開き理解を深め、身体拘束排除のための実践的取り組みを行っている。	マニュアルの整備・研修の実施・安全な生活環境に対する配慮等により、身体拘束をしないケアの実践が行なわれている。また、玄関は施錠せず、入居者の希望に応じて外出する事が可能となっており、職員による見守り・声掛け・付き添い等が行われ、入居者らしい自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設当時の職員は高齢者権利擁護の研修に参加し、高齢者虐待法を意識し理解を図り、早期発見を心掛けている。全職員にも高齢者虐待防止法を提示し、周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は「権利擁護事業」「成年後見人制度」の研修及び認知症介護実践者研修で、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学び理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約をする際は、十分な説明を行い、ご家族の疑問や不安が解消されるよう、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見や要望を聞き、出された意見は職員で話し合い、サービスに反映させている。また、「ふくろう通信」や「一行日誌」を毎月発行し、その中で報告や、日々のホーム内の様子を知らせている。	意見箱の設置・面会・電話連絡等により、家族の意見や要望等を確認している。挙げた意見・要望においては会議等で周知・検討を図り、サービス内容の改善や質の向上に繋げている。毎月の「ふくろう通信」発行や「一行日誌」で入居者の様子を写真や手書きで報告をする等、意見・要望を言い易い環境作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員が気軽に意見や要望を言える雰囲気を作り、聞くように心掛けています。申し送りやカンファレンスで、意見交換した内容を代表者と共に協議し、生かせるように取り組んでいる。	定期的に職員会議の開催を行うと共に、管理者が個別に相談に乗る等、職員の意見や提案等を確認し、施設運営や職場環境の改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生活動を積極的に行い、働きやすい職場環境の整備に努めている。介護職員処遇改善交付金を申請、介護職員の収入増を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	活力ある施設を維持するため、全職員を対象に認知症介護実践者研修及、リーダー研修、その他外部研修に参加できる体制を取っている。カンファレンスで、研修報告を行い、情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県地域密着小規模ケア推進協議会に加入、勉強会に参加し、困難事例の問題等を共有し、アドバイスを受けたリ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までと違った環境の下、緊張と不安を取り除くべく信頼関係を築く為に、職員は笑顔で言葉掛けはゆったりと、優しい雰囲気ですべて接している。生活歴や経験等を知りその人らしい暮らしを支える為にそれらを活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から出きる限り多くの生活歴等の情報を頂き、ご家族の要望、不安等を理解し受け止めることで、家族の心の不安を軽減できるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いにより生活歴、ライフスタイルを知り、入居者や家族の求めていることを把握し課題を明らかにし、分かりやすく説明、理解してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。配膳の手伝いや盛り付け、掃除の手伝いなど、職員が助けてもらったり教えてもらったりする場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを家族・職員が聞き、或いは心情を察し、家族と職員の間でその情報を共有し、本人の思いが実現できるように、必要であれば家族に協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外出時間に柔軟性を持って対応し家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。外出・外泊は家族に相談し、機会を作って頂くよう努めている。	入居者の友人や親戚等との交流関係継続や馴染みのある場所への外出を通して、地域との関係を大切にされた支援が行なわれている。また、外出・外泊においては家族の協力を得る等、家族関係継続も支援している。他には、お墓参り地域の祭りへの参加等、生活歴に配慮した馴染みの生活継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を全職員で把握している。その上で職員が仲を取り持ち、利用者同士の関係が円滑に、上手くいくように努めている。利用者個々の性格を把握、利用者間で助け合いながら過ごせるような関わりを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には見舞いに出るだけ多く行けるように努めている。契約終了後に本人・家族にとって知りたい情報がある時は、情報の提供をし必要な時にはいつでも相談に乗れるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と接する中で思いを把握し、家族や職員からの情報を収集し本人の希望や意向に添えるよう努めている。困難な場合は本人の言葉や表情、しぐさなどから多角的に読み取り、職員間で意見を出し合い家族からも意見を聞き、検討している。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認している。また、必要に応じて医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。入居後は日々の生活観察や会話の中から意向を汲み取ると共に、家族等と情報交換を継続的に行い、入居者の意向に添ったサービスの提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴や生活習慣、生活環境、趣味、これまでのサービス利用の経過などを聞き、本人からも日常の会話の中でそれらを聞き取れる様に努め、把握できるように努めている。		

【千葉県】グループホームふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりに関わる中で日常状態を把握し、変化がある時には申し送り時やカンファレンスで情報伝達を確実にを行い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報収集と意見、また職員が日々関わりを持つ中で、気付いた本人の希望する生活や課題をカンファレンス等で話し合い、モニタリングし、介護計画を作成している。その後家族に提示し、意見をもらっている。	本人や家族の意向や看護師・職員の意見を基に、全職員にて情報交換・検討を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を行うと共に、必要に応じて介護計画の見直しを実施し、現状に即した介護計画の作成に努めている。一人ひとりの生活記録等を基に、入居者主体の生活の支援やサービスの提供に配慮した介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、飲水量、排泄チェック、バイタルチェックや本人の言葉、行動、表情、生活の様子、状態の変化などを、介護記録に記録し、職員間で共有している。介護計画の見直しの際は、情報の一つとして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた柔軟な対応に努めている。通院の支援・床屋への付添いや床屋へ行けない方への散髪など職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩により地域の方と挨拶を交わしたり立ち話をする、スーパーや商店に買い物に行くなど日常的な活動の支援を行っている。		

【千葉県】グループホームふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者又は家族が希望している医療機関を受診している。受診時の同行や必要に応じてバイタルチェック表を提示している。協力医とは24時間連絡が取れる体制をとっている。歯科の訪問診療を行っている。	希望の医療機関への受診が可能となっている。また、希望に応じて、職員による付き添い支援も行われている。法人母体の病院の医師による定期的な往診の実施や緊急時・重度化における24時間の対応等が行われており、医療支援や健康管理面で迅速で適切な対応が取れるよう協力体制が構築されている。看護職員による健康管理・服薬管理・相談対応も行われており、家族や職員の医療面・健康面におけるケアの不安解消に繋がっている。必要に応じて、医療機関や介護サービスへの切り替えも円滑に行えるよう、関係機関との連携体制の強化も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や気付きや疑問を報告、相談して看護師からアドバイスを受けて介護にあっている。看護師は介護職員への指導とフォローアップを行い、必要時かかりつけ医に相談し早めの対応をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、ADLや経過を書類にして入院先に提出している。入院中の経過報告をしてもらい、退院後も順調に回復できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、日常の健康管理や急変時の対応、入院先との連携について家族に説明し、意向にそうよう努めている。看取りについての指針作成、家族の意向尊重して同意書を作成するようにしている。	重度化や終末期における施設の方針を入居者・家族に説明し、了承を得ている。重度化・終末期の場合については、日頃から法人母体の病院の医師や看護師と連携を図っており、状況やニーズの変化に応じて適切な支援が行えるよう協力体制の整備に取り組んでいる。職員は入居者・家族の意向をその都度確認を行い、意向に添った安心で納得の得られる支援方法の再検討やケアの統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応は、職員の入職時オリエンテーション時に確認すると共に電話の側に提示してある。急変時の前触れとなる健康状態の把握についても、シグナルを読み取ることに努めて予防的対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を年2回行っている。緊急通報装置、火災報知機、スプリンクラーを設置している。	緊急災害時のマニュアルが整備され、避難経路の確保がされていると共に、緊急通報装置・スプリンクラー等を設置し、災害時や緊急時に備えている。年2回、夜間・地震等の想定を含めた消防避難訓練を実施している。また、非常災害全般の管理を専門業者に委託しており、機器確認・相談等、プロによる災害時の安全確保が行われている。運営推進会議を活用し、地域住民に災害時・緊急時の相互協力の呼びかけも行われており、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。他に、AEDの設置や救命救急の講習が行われており、急変時や事故発生時の対応方法を身に付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないようにしている。常に尊厳を守って接するように心掛けている。カンファレンスでは、声かけや話し方や接し方について話し合い、反省する事がないか振り返っている。	接遇やプライバシー保護に関するマニュアルの整備や研修が実施されていると共に、会議の議題に取り上げる等、プライバシー保護に対する意義や理解を全職員が共有している。接遇においては、一人ひとりに合った言葉使いや介助方法に細心の注意を払い、入居者の尊厳を配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる場面を作るようにしている。利用者の能力により複数の中から選択してもらったり、自己決定を容易にする工夫をしている。本人の心を大切に受け止め、寄り添うケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した暮らしを支援している。季節毎の自然やその日の天候などを考慮して、散歩や買い物など、その時の本人の意向を引き出し、それに沿って過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりのオシャレ(化粧など)、身だしなみ好きな服などの生活習慣の情報を本人・家族から聞き取り、継続して楽しむことができる様支援している。理容・美容も本人が望む店へ行けるようにしている。		

【千葉県】グループホームふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずは3食栄養のバランスを考慮し、配食サービス(食材)を頼んでいるが、朝食はご飯・パンを選択できるようにしている。食事の準備・片づけは、一人ひとりのできる能力を把握し、職員と一緒にやっている。食事は信頼関係の構築という意味も踏まえ、利用者と職員と一緒に食べている	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。食材の一部を委託業者を利用しており、身体状況や栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、手作りおやつ・外出会・誕生会・行事食では入居者の希望・旬の食材を取り入れる等、様々な食の楽しみを支援している。その他にも、行事食・お楽しみメニューの担当者制を導入し、職員と入居者が共同で献立作成から調理までを行っており、食を通じて馴染みの関係が築けるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通じた食事量、飲水量の確認し記録をしている。利用者のその方に応じた量・大きさ・食べるペースや体調などを把握し、声かけを行う水分もなるべく800ml以上は摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後の歯磨きを促している。能力に応じ見守りや介助の支援をし義歯は預かり消毒する。口腔内や歯に不具合が有る場合は、歯科医の往診が受けられ、治療及び、口腔清掃、歯磨き指導を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけることにより、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導をさりげなく促している。夜間はその人の能力に応じ、見守り、トイレ内介助、歩行介助、定時に誘導等自立に向けた支援をしている。	排泄チェックリストを活用しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な排泄支援がなされている。また、身体状況や精神面に配慮しながら、見守りや声掛け・トイレ誘導等の支援方法を工夫し、排泄の自立支援に取り組んでいる。医師・看護師の協力を得ながら、適切な排泄習慣の確保に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多いバランスのとれた食事を作り、食事摂取と適切な水分量が確保されるように注意している。また体操や散歩やホール内歩行など楽しみながら運動も行っている。便秘傾向の人には、適切な量の下剤の使用も工夫している。		

【千葉県】グループホームふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、午後に行っている。入浴を拒む人には無理強いせずタイミングに合わせて声かけや対応の工夫をしている。湯の温度や洗い方など個人の要望を聞きながら、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	入居者の希望に応じて毎日入浴することが可能となっており、柔軟に対応している。また、必要に応じて、シャワー浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。脱衣所には、エアコン・ヒーターが設置されており、快適な入浴ができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や落ち着きのなさや緊張、疲労の程度に応じて、一服したり、心身を休める場を個々の生活パターンに応じて取れる様支援を行っている。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者には、屋間の作業をできる限り作り、リズムをとっている。不眠の方は、医師と相談し、助言を受けた場合により、睡眠剤を服用していただき安眠へとつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は必ず職員が行う。個々のケースに処方内容をファイルあててあり、すぐ目を通せるようにしてある。薬の作用と副作用については看護師より説明され、日常状態観察し、申し送りや記録で引き継ぎがなされ、体調管理されている。全ての薬は薬局に分包を依頼し、名前、飲む時間などを袋に記載してもらい、飲み間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、生活歴から一人ひとりが楽しみごとや出番を見いだせるよう、場面作りの支援を行っている。(掃除、新聞を読む、ボードへのメニュー書き、お茶入れ、盛り付け、等)気分転換やストレス解消に、ドライブ、散歩など外の空気や季節を感じ、喜びに繋がるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のご本人の希望による外出と、気分転換、ストレス解消効果として、買い物、散歩、ドライブ等ご本人の体調と天候を考慮しながら、希望に沿った外出ができるよう支援している。	入居者の希望・体調・天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行なっている。また、季節に応じた外出行事を企画・実施し、戸外での楽しみを支援していると共に、入居者と職員の楽しみの共有化に繋げている。近隣の他の介護サービス事業所との行き来も行われており、積極的な外部交流が入居者の楽しみとなっている。	

【千葉県】グループホームふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対しての思いは、個人によってその時の状況によって、様々な形で表現される。その思いの違いをくみ取り支援する。希望する人は、職員同行にて買い物へ行き、できる方は職員見守りにて、支払いもしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたいと希望する時は、本人の願いに応じて電話をかけるようにしている。家族からの手紙が届けば、本人が読める様支援している。毎年家族宛てに年賀状を書いているが個々の能力に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や装飾を行っている。また、利用者と共に季節の飾り付けをして、季節を感じてもらえるようにしている。音量に注意を払いながら利用者の好きな音楽を流し、リラックスできる空間を演出している。	施設内はバリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮している。リビングの窓からはウッドデッキ越しに外の風景が広がり、明るく開放的な造りとなっている。また、ソファやテーブルが設置されており、入居者がくつろげるよう配慮している。施設の随所に入居者の作品や行事の写真等を掲示しており、職員と入居者が楽しみを共有出来るよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事するテーブルは3ヶ所あり、仲良しで一緒に過ごしたい利用者が並んで座れるようにしているソファや室内の家具を移動して、その時の利用者同士の関係性に合わせた配置としている。		

【千葉県】グループホームふくろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族にお願いし、長年使い慣れた家具や家電、好きな写真などを持ち込んで頂き、安心して居心地が良く暮らして頂けるよう工夫している。	入居者の希望に応じて馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、ベッド・布団の選択が可能となっていると共に、居室を自由にアレンジする事が可能で、好みや生活歴に合わせた個性を活かした居室作りがなされている。エアコン・換気扇が設置され、適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりの位置やテーブルや椅子の使い易さは適切か、利用者の状態に合っているかを職員間で話し合うことにしている。トイレや浴室には、見やすい場所に案内を表示している。個々の居室にご本人の写真と名前を貼るなど、工夫している。		